



池田名誉会長

光の言葉
幸福の曲

配達員制度
発足60周年

無冠の道は
「幸福の道」

ハッピー・ロード

申斐の山々を望みながら、一本の道を行く。傍らに、まぶしい日差しを浴びて、勢いよく草花が伸びていた。1997年（平成9年）6月の山梨。池田名誉会長がシャッターを切った。
名もなき道、路傍の花。その光

景は、喝采はなくとも誇り高く、今日も本紙を届ける配達員の英姿と重なる。この尊き同志を、名誉会長は「無冠の友」と呼ぶ。

「日本中、世界中の人に読ませたい」と戸田第2代会長が語った聖教新聞。その遺言を胸に、名誉

会長は、世界の識者と語り、自ら書き、本紙の発展の先頭に立ってきた。その心はいつも、「最終走者」たる無冠の友と一つである。

今日は配達員・販売店制度の発足60周年。世界一の無冠の同志と共に、「幸福の道」を歩みたい。



ノーベル平和賞を受賞した『環境の母』マータイ博士との会見を終え、笑顔で見送る池田名誉会長夫妻（2005年2月、東京・信濃町の聖教新聞本社で）。
「無冠の友」と一体で、平和の道を開いてきた

きょう
今日も、明日も、
大地の鼓動の如くに、
その足音は確実に響く。
そして、
その響きに合わせるように、
慈悲に満ちた太陽が悠然と昇り、
人々の朝が始まる。

無冠の友は、
太陽の使者ともいえるだろう。
雨が降り、風の吹く時、
いよいよ強盛の信心を表し、
自身を磨きゆくあなた方こそ、
学会魂の伝持者であることを、

私は知っている。
労苦を経験した人のみが、
労苦の友を包む心をもっている。
その意味で私は、
無冠の友こそ、
わが同苦の友と信ずる。

人類の悲劇を
希望の劇へと転じながら、
友よ、あなたは、
愉快ににぎやかに
駆けてゆく。

私たちの進む「この道」は
ハッピー・ロード。
路傍の人も

「楽しそうね」と
一緒に歩き出す。

私たちの進む「この道」は
ビクトリー・ロード。

凛々しき
民衆のヒーロー、ヒロインは、
皆のあこがれだ。

朝に 私は祈る。

足どりよ軽やかであれ

みな無事故であれ

一日の幕開けを朗らかにと。

そして夕べに 私は祈る。

みな幸多く和楽の一家であれ

今日も明日もと。

わが愛する無冠の同志よ。